

イゴール・レヴィット in ザルツブルク

ニュー・アルバム『トリスタン』を引っ提げ、いよいよ日本へ！

8月24日、満席のザルツブルク祝祭

劇場が息を呑むなか、すっかり音楽祭の顔となつたイゴール・レヴィットは、バルトーク『戸外にて』から今宵のプログラムを慈しむように弾き始めた。

無声映画のような描写を魅せた5曲は、特に「夜の音楽」が印象的だつた。バルトークの後のシューマン『森の情景』は口マンティックな優しさが際立ち、ピアノで語る詩人のようだ。転じてワーグナー『トリスタンとイゾル

デ』前奏曲』はオーケストラのような壮大なフレージングで、編曲者のゾルターン・コチシュが聴いたらさぞ喜ぶだろう。強靭な集中力で弾き終えると、そのまま気持ちを途切れさせずにリ

スト『ソナタ』ロ短調へ入つてしまつた。この義理の父子の曲が一つの大きな世界を構築して終わると、聴衆は立ち上がりたり、拳を掲げて感極まつたりする騒ぎ。5回目に呼び出されたときは語る』を弾いたが、頭の中は「トリストン色』に染まつたままだつた。

翌日のインタビューには白いTシャツで現れ、この後ヨガスタジオに行くのだという。昨晩の気持ちを聞いてみた。

「とてもよい気分で弾けました。この街が好きだし、ここで弾けることが嬉しかつたです。でも弾き終わつたら、過去のことは忘れてしまうので、よく

眠りました」

曲順による効果は意図的かと聞くと嬉しそうに、「登場してすぐに、バルトークでバンバンかき鳴らすのは爽快です。その後のシューマンは効果的だつたでしょう? ワーグナーがオーケストラ的アプローチだと言つてももらえたのは嬉しいですが、それをどうやつて実現させたのかは僕にもわかりません。オペラ『トリスタンとイゾルデ』はよく観ているので、そのときのオーケストラ・サウンドを想像しながら弾いています。マエストロ・コチシュには会えるチャンスがあつたのに、実現しないうちに亡くなつてしまつたので、とても残念です。リストの『ソナタ』を続けて弾いたのは、ちょうど『トリスタン』の終わりのように始まる曲なので、ここで切つていたら、エンディングを2回弾くようになつてしまふらうです。そのまま続けることによって、一つの世界を作れたのです」

9月21日発売の新譜『トリスタン』では、ヘンツェ『トリスタン』も聴ける。正確にはこの曲がメインなのだと

「僕は特に夜の描写が好きで、この愛名曲を、もう3~4年も前から録音したいと思っていました。僕はピアノ作曲家でなくとも、自分が身近に感じる作曲家の作品は弾きたいので、いろんな手を使って実現させようと思ひます。

ザルツブルク音楽祭に出演したイゴール・レヴィット。知性溢れるプログラミングと心揺さぶる演奏に聴衆は魅了された
Solistenkonzert Levit 2022 Igor Levit (Klavier) ©SF / Marco Borrelli

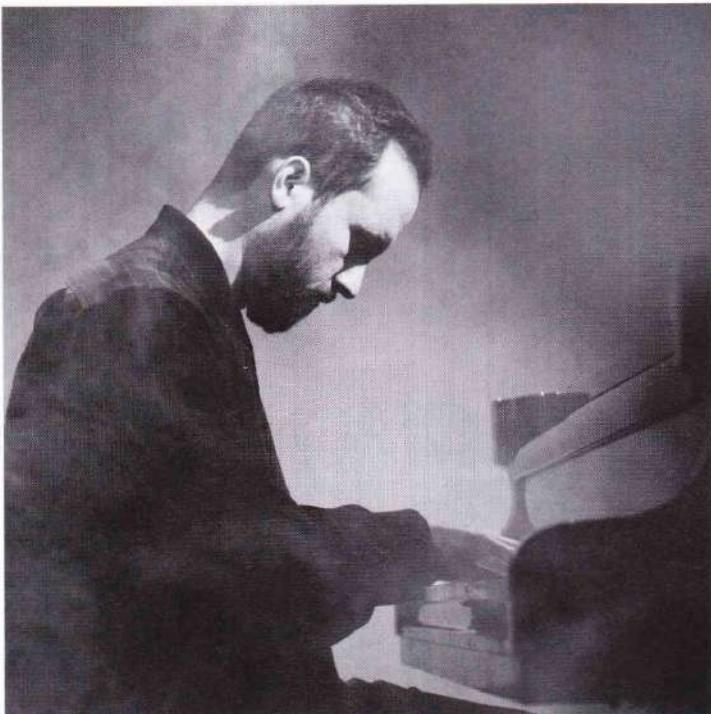




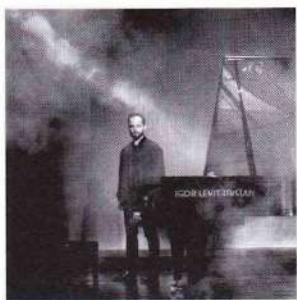
■公演情報

イゴル・レビット
ベートーヴェン「ピアノ・ソナタ・サイクル・イン・ジャパン I & II (全4回シリーズ)
〈日時・会場〉①11月18日19時
②11月19日14時・紀尾井ホール
〈曲目〉①ベートーヴェン「ピアノ・ソナタ第1、12、21、25番」②ベートーヴェン「ピアノ・ソナタ第5、19、20、22、23番」
〈問合せ〉ジャパン・アーツびあ
0570-00-1212

公演翌日、インタビューに登場したレビット。来日公演への想いからヨガへの傾倒までも、和やかに自身の「現在地」を語る



最新アルバム『トリスタン』ではテーマそのものをオペラの主人公「トリスタン」としたレビット
©Felix Broede



『トリスタン』
〔演奏=イゴル・レビット(p)〕曲目=リスト「〔愛の夢〕第3番」・ヘンツェ「トリスタン」・ワーグナー(コチシュ編)「楽劇『トリスタンヒンツルデ』前奏曲」・マラー(スティーヴンソン編)「交響曲第10番」・アダージョ、リスト「夕への調べ」
ソニー・ミュージックから好評発売中
[S-SICC30609~10]

取材・文=中東生

「僕は自分の録音をいつさい聴かない
のでなんとも言えませんが、コロナ後の
録音は、コロナ前とは違ったアプロ
ーチになったと思います。新型コロナ
は誰にとっても大きな変化でしたが、
僕にとっては貴重な体験でした。たい
へん日々ではありました、芸術的
に自由になれ、聴衆に生で聴いてもら

う」
このアルバムはまさしくコロナ禍直
前にヘンツェを、そのほかをロック・
ダウン後に録音した。その差を自分で
も感じるのだろうか。

「僕は自分の録音をいつさい聴かない
のでなんとも言えませんが、コロナ後

の録音は、コロナ前とは違ったアプロ
ーチになったと思います。新型コロナ
は誰にとっても大きな変化でしたが、
僕にとっては貴重な体験でした。たい
へん日々ではありました、芸術的
に自由になれ、聴衆に生で聴いてもら

う」
このアルバムはまさしくコロナ禍直

前にヘンツェを、そのほかをロック・
ダウン後に録音した。その差を自分で
も感じるのだろうか。
「僕は自分の録音をいつさい聴かない
のでなんとも言えませんが、コロナ後

の録音は、コロナ前とは違ったアプロ
ーチになったと思います。新型コロナ
は誰にとっても大きな変化でしたが、
僕にとっては貴重な体験でした。たい
へん日々ではありました、芸術的
に自由になれ、聴衆に生で聴いてもら

れるありがとうございました。それま
で僕はストレスフルでしたが、平穀を得られ、親密な感覚も得られ、眞実と
な曲を演奏していきたいし、編曲版が
なければ、自分でアレンジするでしょ
う」
このアルバムはまさしくコロナ禍直
前にヘンツェを、そのほかをロック・
ダウン後に録音した。その差を自分で
も感じるのだろうか。
「僕は自分の録音をいつさい聴かない
のでなんとも言えませんが、コロナ後

の録音は、コロナ前とは違ったアプロ
ーチになったと思います。新型コロナ
は誰にとっても大きな変化でしたが、
僕にとっては貴重な体験でした。たい
へん日々ではありました、芸術的
に自由になれ、聴衆に生で聴いてもら

れるありがとうございました。それま
で僕はストレスフルでしたが、平穀を得られ、親密な感覚も得られ、眞実と
な曲を演奏していきたいし、編曲版が
なければ、自分でアレンジするでしょ
う」
このアルバムはまさしくコロナ禍直
前にヘンツェを、そのほかをロック・
ダウン後に録音した。その差を自分で
も感じるのだろうか。
「僕は自分の録音をいつさい聴かない
のでなんとも言えませんが、コロナ後

の録音は、コロナ前とは違ったアプロ
ーチになったと思います。新型コロナ
は誰にとっても大きな変化でしたが、
僕にとっては貴重な体験でした。たい
へん日々ではありました、芸術的
に自由になれ、聴衆に生で聴いてもら

れるありがとうございました。それま
で僕はストレスフルでしたが、平穀を得られ、親密な感覚も得られ、眞実と
な曲を演奏していきたいし、編曲版が
なければ、自分でアレンジするでしょ
う」
このアルバムはまさしくコロナ禍直
前にヘンツェを、そのほかをロック・
ダウン後に録音した。その差を自分で
も感じるのだろうか。
「僕は自分の録音をいつさい聴かない
のでなんとも言えませんが、コロナ後

の録音は、コロナ前とは違ったアプロ
ーチになったと思います。新型コロナ
は誰にとっても大きな変化でしたが、
僕にとっては貴重な体験でした。たい
へん日々ではありました、芸術的
に自由になれ、聴衆に生で聴いてもら